

ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年5月1日

5月号・第184号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



松林の腐葉土掻き（協働作業）

Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	桜祭り・報告 & 行事案内part1	11
多土済々	2	字遊字感	12
Monthly Repo.ならやま	3	仲間入りしました	13
里山の今	4・5・6	ならやまプロジェクト	14
3月・月例研修会・報告	7	行事案内 & 行事予告 & 奈良学クイズ	15
新入会員歓迎会・報告	8	幹事会報告・行事案内	16
4月・自然観察会・報告	9	総会案内・申し合わせ・編集後記	17
4月・月例研修会・報告	10		

壮春力歩

会長 鈴木末一

1 人の高校生に学ぶ*****

ある朝、スポーツバッグを背負った高校生に出会った。バッグには校名と名前が刺繍してあるので、ひと目で野球部員であることが判った。横断歩道を渡りきった所に、心ない人が落としていったか捨てたのだろうか、ゴミが散乱していた。すると、高校生は、その一つ一つを素手でつかみ、拾い集めたのであった。その光景は、車を運転していて、自転車通学している多くの高校生たちと出会った時のことを思い出させ、オーバーラップした。狭い道路ですれ違うことがよくある。そんな時、車を一時停止させて、彼らが行き過ぎるのを待ってあげるようにしている。軽く会釈して通り過ぎる者、黙って無表情のままで、車が進路を譲るのが当然であるかのように通り過ぎていく者、中には「ありがとうございます」と言葉を掛けてくれる者…。

制服を見れば、どこの学校の生徒かはすぐに判る。区別するわけではないけれども、このような極めて限られた場面だけや、ごく少数の生徒の一挙一動だけで、全てを判断してはならないかも知れないが、一事が万事、学校の雰囲気というか、校風や気風が読み取れる。

近年、小中高のいずれの学校においても、それぞれの発達段階に応じて、各種のボランティア活動を取り入れるようになってきた。また、地域社会と学校と家庭との三位一体となった活動が、広がりを見せてきている。人間関係の希薄さが憂慮されて久しい中、お互いの心が通い合うコミュニティーの大切さが徐々に再認識されつつあると思われる。

私たちの会の活動も、地域社会の一員として、どのような場面で、どのような活動によって、地域への貢献ができるのかを再確認しなければ、と思う。ならやま里山林の特性をより一層活用した環境教育のエリアとして、地域のニーズにマッチしたイベントなどを企画し、実践していかなければならない。

私たちシニア世代は人生経験を活かし、地域や子どもたちに対し、先達としての役割を果たしていかなければならない。

早朝に出会った1人の野球部員の気取ることのない、さりげない行動から、多くのことを学ぶことができた。

追悼

会長 鈴木末一

故 池田敬二郎さんに捧げる

池田さん、突然、黄泉路（よみじ）へと旅立っていかれましたね。どこをお探してもお目にかかることができないと思うと、哀しみに胸が張り裂けそうです。

全関西磯釣り連盟会長まで経験された海釣り、スキューバダイビングの腕前をはじめ、民謡、歌謡曲、日本料理など、その多芸多才さにより、池田さんの周りには、多士済々な多くの人の輪がありました。お別れの会にご臨席された方たちの顔ぶれを拝見して、池田さんのご人徳の高さを再認識させていただきました。

お住まいの地域では晩年、自治会の役員として、また、日曜市あぐり市の運営などの推進で、町の活性化、とりわけ住民間のコミュニケーションを深めるためにお力を注いでいただきました。折に触れ、時に当たり、周りにこやかにお声掛けされた言葉の数々は、皆さんの心に響き、いついつまでも語り継がれていくことでしょう。

ご事情により、日曜市を閉じられることになった時、奈良・人と自然の会、ならやま里山林景観形成整備ボランティア活動のことをお話ししましたところ、ご夫婦でご入会いただくことができました。

ご入会後は、豊富なご経験とオールラウンドとも言える才能を存分に発揮していただきました。中でも、シンクタンクとして、料理教室の先生としての腕前をお示しいただきました。昼食時、会員たちに振る舞っていただく豚汁や冷や汁などの一汁は、活動で疲れた時に心身ともに癒され、午後の活動の活力源となり、やがて会の名物となりました。また、農業にも蘊蓄（うんちく）をお持ちで、気軽に色々なことを教えてくださいました。そんな池田さんの悲報に接し、会員たちは「まだまだ教わりたいことが沢山あったのに」と、異口同音に残念がっています。

記念誌の夢・未来の欄に、人好きの池田さんらしさが滲み出たお言葉を綴っていただきました。ご遺志を受け継ぎ、実現に向けて歩を進めていきたいと思っています。

会員たちへの慈父のような眼差しが脳裏に焼き付き、優しいお声が今も耳に残っています。

お別れに涙するばかりです。本当にご苦労さまでした。どうか安らかにお休みください。合掌

多士 済々

熱意を込めて！

村上 雄之(ゆうし)さん

顧問 阿部 和生



東大阪から毎週この「ならやま」に精励されています。「ならやま」は、幼少期を過ごした故郷延岡を思い起こさせ、自然に恵まれた環境が素晴らしい！と言われます。腰に下げた山班作業の諸道具や自然工

作用のそれは、いつもぴかぴか研ぎ澄まされています。もちろんチェーンソーも毎回の作業終了後の手入れは欠かすことがありません。丁寧に丁寧に、ねじを外してゴミを取り、刃を目立てし、オイル等の点検を終えての格納です。幼い頃「肥後守を愛用し、“のこぎり”の目立てまでもやったよ」と言われるとおり、刃物の手入れは身体が覚えているのでしょうか。お手の物です。

京都に出られ、大阪で技術者としてご活躍、「安全・品質・そして生産という考え方がどこか身体に染みついている」と笑われます。いつも身軽に動かれています。「木を倒そうとするときは今でも怖いよ！」と山班のベテランであるにもかかわらず、謙虚に立ち向かっておられます。「作業後の山が美しく綺麗でありたい」と心がけておられるのも、永年の体験と、昔歩き回られた野山の残影もあるからでしょうか？ボランティア活動でも大変重要な要素の一つ、と共感します。ついつい大雑把な作業に陥りやすい日常に、気を引き締めての活動ですもの。

俊敏な動きは、日常の体力づくり、歩け！歩け！にあるようです。「ならやま→西大寺」まで歩くなんて少しも氣にとめない若さをお持ちです。どうかすると、すぐ車に乗ってしまう私たちは、心しなくてはなりません。

この「会」には、年間5回～6、7回に及ぶ各

種イベントがあります。その都度多くの方々が参加されます。このときの自然工作の素材づくりは、事前の準備で大変です。「ブンブンごま」一つをとっても、1個1個の個性に合わせた微妙な調整があつて、はじめて 子供達が「やった！」と歓声を上げる製品になるのです。竹を削り糸通しの穴をつくる。それからが一仕事で、1個の製品に厚さ調整を行い、左右の長さ・幅の調整が加わるのです。色を塗りスムーズな回転が生まれ、色彩が浮かび上がるころまでを見通した「根」のいる作業が伴います。手入れの行き届いた刃物の切れ味が遺憾なく発揮されるときです。

シニア自然大学校17期実習生として「ならやま」に来られ、里山が気に入りに、講座生の時ですら数度来訪されています。講座修了後直ぐに入会され、里山作業を中心に活動されて



いますが「自然工作」もお得意です。バンダナを愛用され、他の参加者への工作指導も親切です。山班としても自然工作チームとしてもなくてはならない存在です。

「ナラ枯れ」は峠を越えたようですが その後始末はまだまだこれからです。「植樹」も待っています。木を伐りたい、竹を伐りたいという多くの小学生が今年も来ることでしょう。彼らの楽しい思い出づくりを、少年時代の体験に重ねながら指導されることでしょう。パソコンは使わないとしておられますが、お電話でのやりとりは能く感情が伝わります。いつしか年を重ねています。体調に留意されつつ、ますますの活動を祈ります。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

3月30日(木) 活動 晴れ 75名+2名

サイトの桜に花が一つ、春が来た。各Gともすっかり定着したミーティング等で大忙し。朝一番にはならやまの清掃作業を全員で行う。また、シニア自然大学の斉藤理事が5月開催予定の朝日親子自然環境教室の打ち合わせのために来訪。里山Gは薪の玉きりを、エコGは畝作りに、そして景観Gは実りの森の石拾いに取り組む。その他バイオ班は水生生物調査やレンコンの苗の植え付け、花班は花壇の手入れを、そしてパト班はミーティングの他、観察路の整備に時間をかける。ミツバチの巣箱が設置される。



4月6日(木) 活動 晴れ 66名

サイトの桜も満開になり、春爛漫だ。打ち合わせでは4月行事の紹介・参加要請のほかに新入会員等の紹介が行われる。多くのメンバーが入り、サイトも活気に満ちる。また、月初めの協働作業が行われるが、いつかはならやまにマツタケを、との思いで参加者も松の土かきに汗を流す。まだまだ時間がかかりそうだ。午後の打ち合わせでは、果樹班やミツバチ班の正式な紹介が行われる。また、今日から竹の子隊が活動開始。小さい2個の竹の子が収穫できた。Gの活動



は、協働作業のほか、しいたけの収穫、そして竹の子掘りと多彩だ。その他、池の整備や花の移植、加えて散策路の階段修理とこちらもいつものな

がら大変な作業だ。

4月13日(木) 活動 晴れ 71名+6名

内閣総理大臣表彰受賞。日頃の地道な活動が実を結んだ結果であろう。また、今日は竹の子採りや鹿背山のマツタケ山見学、そしてシニア自然大学との朝日親子自然環境教室の詰めと、大忙しの日になった。しかし、竹の子の収穫量も今一つとのこと。来週以降に期待したい。Gでは駐車場の入り口や里山への階段等の施設整備に時間を使うところ、夏野菜や夏花のための網張りや植え替えに取り組み、夏の準備をするところ、その他、レンコン池の整備等新しい取り組みを進めるところと、多種多様な活動が繰り広げられた。益々充実のならやまである。



4月20日(木) 活動 晴れ 71名+1名

本当に忙しい一日だ。しかし、昼食にはおいしい竹の子ご飯に舌鼓を打つ。すばらしいプレゼントになった。午後からは刈り払い機の講習会が開かれる。活動日の午後の設定のため、参加者も多く、機械の構造や作業上の留意点の説明を受けた後、早速実習に。初めて機械に触る人も一生懸命実習に取り組んだ。伐倒木の処理の里山G、夏野菜の植え付け準備のためのマルチ張りのエコG、そして実りの森の草刈りの景観Gと作業も多い。またバイオ班は池周りの草刈り、花班は山野草園の草取りと柵作り、午後は花の種まき、そしてパト班は竹杭作りと、こちらも目いっぱい作業が続く。



里山グループだより

菊川年明

◆カシナガ調査の余録

かねて近隣府県で猛威を振るっていたカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」と称）によるナラ枯れは平成21年には奈良県下に飛び火し、たちまち若草山周辺のコナラ林が、大被害を受けるに至った。

この被害林を指呼の間に望むならやまにカシナガが襲来するのは必至となり、平成23・24両年に木村裕氏の主宰下でカシナガ発見のための調査を小生物捕獲用の粘着トラップを用いて行い、ならやまのコナラ約30本に取り付けた。

この両年には、いずれもカシナガ自体は発見されなかったが24年には数本のコナラにプラスというカシナガ被害木に特有の微細な木屑が見られるようになった。そこで被害木は伐倒し、防除薬剤での燻蒸等、対策を講じたのであるが、更にその翌25年には被害木が続出し、その猛威には手の施しようがない状態になった。現在ではカシナガ被害は一応沈静化しているが、カシナガ発見のために用いた粘着トラップは他面で棲息生物の調査として効用は大であった。

大発見はシロマダラという珍しい夜行性のヘビであった。そのほか目にすることが希なジムグリ（ヘビ）もトラップにかかった。また、複数のマムシもトラップにかかった。尺余の太短いヘビが木に登れることを初めて知った。

昆虫ではチッチゼミ、ハネナシコロギス、トビ



ナナフシ、ヒメカマキリ、カマキリモドキなど、目にする事のなかった種類の棲息も確認で

きた。詳細は木村裕氏の労作「カシノナガキクイムシ初飛来確認調査 コナラ林における粘着トラップによる生き物調査-2012-」に詳しい。

(写真ハシロマダラ)



エコファームだより

青木芳一

◆夏野菜の生育

3月播種した夏野菜は、ビニール小屋内で成長して4月6日よりポットに移植しています。その日の昼休み、グループのミーティングが行われました。去年は、植え付け後の水やり、除草の作業が不十分であったため、作柄が悪かったとの反省点が出ました。今年は4～5月の期間、毎週月曜日を臨時作業日として、メンバーは出来る範囲で参加することが決まりました。最初の臨時作業日の4月10日は、えんどう豆とそら豆畑の鳥対策のためネット張り作業と定植に向けての畝作り、除草作業をしました。

畑に定植した野菜の若葉は、朝は水滴をつけ、立ちぎみで、昼は水平になり、夕方には色は濃い緑色で弧を描いていれば、根が健全で水分を吸収していることを示しています。野菜の生育がよくなかった場合は、土を掘って根を見ることが大切です。健全な根は白いが、褐色になっていたら土壌中の病原菌、肥料のやりすぎです

野菜が成長していくと、葉や茎の色や形から水や肥料を必要としていないか、寒すぎたり暑すぎたりしていないかを判断する必要があります。これは生育診断と云われています。葉の緑色は光合成に重要な役割をしている葉緑素で、その量は窒素と関係が強く、色が濃いと窒素が多いことを示しています。不足すると下葉から全体が黄色くなります。葉に艶がないときは、土壌水分が少なかったり、多すぎて根腐れを起こしたりしている場合があります。肥料や水分、光が十分で光合成が盛んな葉は、厚くて大きいです。葉は大きいが薄く垂れているときは、日照不足や夜の温度が高い、窒素が多すぎるなどが考えられます。葉が小さい場合は、肥料や水分の不足、低温などが、原因のことが多いです。

野菜の生育状態を、早め早めにチェックし対応することにより、また、除草作業を頻繁に行い、新鮮で美味しい野菜を収穫して皆様に提供出来るよう努めます。

景観グループだより

塩本勝也

◆ならやまのインフラ整備を思う

景観グループだよりの欄には馴染みませんが、こんなことを思っているので少し書きます。

BC前の道路の法面を大切にし、軽い負担で景観に馴染む花壇をつくることを試みました。ふと、傍にあるBCのメイン階段の新旧を見比べて思わず笑ってしまいました。東側の古い階段は桟木を立杭で留めただけのもので、地中部にある側壁を跨ぐようにして設置した。新しい階段は側壁部を外し、出来るだけ緩やかにして手摺まで付けている。安全性の向上のため固定ボルトで締結、カスガイの利用などいろいろな工夫がされている。



ここには設置時の財政状況と技術能力の違いがはっきりしています。おのずと安全で安心して使える方向に進化していることが一目瞭然です。

ならやまのフィールドは、会員以外の多くの方にも利用されるようになってきました。一方、里山、エコ、景観等々の各グループの活動が活発ですが、いわゆるインフラに相当する部分の整備はどこがやるのでしょうか。例えば階段、橋、引き込み道路などがこれにあたります。対外活動が拡大されていくようですので、下支えするインフラの整備がますます重要になってきます。グループ間のスキマや共通部分の事柄について全体で見ることが必要ではないでしょうか。人手は各グループから出るとしても専門的な知識を持った人の出現が期待されます。また予算面も含めて総合的に対応を考えていくべきではないでしょうか。もちろん、ならやまの景観に馴染む工法で、より安全性に配慮した構築が必要だと思います。



里山の今

パトロール班だより

有元康人

◆ならやま自然観察路

今年の春は、お水取り以降も肌寒い日が続き、奈良の桜も開花が遅れ、花が咲いても寒い日が続きました。

それでも春は着実に進んでおり、里山林の入口では新しく植樹したカンヒザクラが、小さいながらも濃いピンク色で競っており、山の中に入るとコメツツジや、湿地帯に行くとショウジョウバカマが見事に開花しています。

観察路の整備では、ナラ枯れで落下した枝を、今日までその都度、観察路から排除してきましたが、景観グループとの共同作業で指定の場所に集め整理をしました。お陰で、観察路の景色が一新しました。

また、ショウジョウバカマやツルリンドウの柵作りや、観察路の各所に休憩用のベンチの設置などを行いました。観察路には、カンゾウやフキなどの茂みがあり、パトロール班内では野草園構想も出ており、さらに楽しめる観察路作りを目指しています。

これから、各種の花木や草花が咲き乱れていきますが、その中で観察路にはナラ枯れで腐食したコナラの大木が多数存在し、その枝が観察路に数多く落下しています。その落下木が、会員や通行人に当たる事故が起こる事も想定されるので、安全対策が必要との指摘もあり、問題提起が必要と思っています。

皆さんは、観察路の中で平城宮跡の大極殿が見える場所があることをご存知ですか。

そこが「鳥観の丘」です。

しかし現在は、視線の途中に大きな竹があり、かなり見にくくなっています。

この竹が生えている場所は、管理地の外にありこれを撤去するには、地権者の同意が必要です。鳥観の丘から大極殿の展望は、観察路の魅力の一つでもあり、パトロール班内部では、早期の対策が出来るようになることを期待しています。

ならやま虫だより

菊川年明

◆シオヤトンボ

シオカトンボの仲間のトンボで、本邦特産種である。ならやまではよく見かけるトンボであるが、シオカトンボほどには多くない。出現期はシオカトンボより一足早い、終期は7月である。ちなみにシオカトンボは晩秋の11月まで活動している。

外見もシオカトンボによく似ているが、一回り小さく（アキアカネ程度）、尾のように見える腹部がずんぐり太い。体色はシオカトンボと同様にオスは白っぽい青色、メスは黄色の地に黒色の縞模様がある。ただし、メスの縞模様はシオカトンボとはっきり異なるので両種の識別はむづかしい。オスの色彩はシオカトンボとほとんど差異がないので「どちらかな」と思うことがある。ただし、オスは未成熟の間はメスのような体色である（シオカトンボも同様）。

止まり方には特徴があり、地面や平らなものの上に張り付くように止まることが多い。それに飛び立っても直ぐに止まる。

このトンボは丘陵地や低山地に棲息する。幼虫の生育には少し流れのある湿地が適しているという。彩りの森の東にそのような場所がある。

名前の由来は、オスの体が白く塩をふいたように見えるところから「塩屋」だそうであるが、「屋」は何を意味するのか不思議である。



（写真は
上がオ
ス、下は
メス）



里山の今

鳥シリーズ

小田久美子

◆マイ・ライフワークの鳥

「イソヒヨドリ」

2016/4 から我が家の周辺でも姿や囀りが聞かれるようになり、今年の4月初めからは頻繁に目撃するようになりました。4/7には斜向かいのお宅のアンテナの上にラブラブの番を見つけましたし、我家の前の電線でも囀ってくれていて、周辺での繁殖が期待され毎日ワクワクしています。

『奈良の野鳥物語』（2013年発行）で「最近の大繁栄の原因は」と題して「イソヒヨドリ」を担当し過去のデータを整理し発表しました。

奈良県の初見の記録は、1989年松尾幹事の1羽でしたが、その後、子育ての目撃も増え続け2012年には37羽になりました。

副題を「天から声
と姿の二物を与え
られた幸せと、環境
変化と好き嫌いをし
ない自助努力の甲斐
あって子孫は大繁栄
」としましたが、まさ



撮影 田中

にその通り、全国の内陸部で勢力を拡大し続けている鳥です。餌はハエトリグモ・カナヘビ・ミミズ・カマキリ・蛾・トカゲ・毛虫・青虫など、かなりの悪食です。果実ではノイバラの実、梅酒の実など何でもござれ、人が何気なく捨てるゴミ箱は宝の山、最重要採餌ポイントです。誰もこの鳥のことを気にも留めないし、嫌がられもしないので、繁華街でも充分楽しく生きて行けます。

初めて自分で確認したのが2005年の榛原駅のオスでした。直後、学園前での繁殖を目撃して記録を取り始めたのが本の発表に繋がりました。本刊行の後、主人・友人の目撃情報などで今も継続して記録し続けています。

本の縁で、野鳥の会本部の都市鳥研究家の川内さんを、奈良市内のイソヒヨドリやムクドリのポイントなどを一日案内したこともあり「イソヒヨドリ」は私の特別な鳥になりました。

3月・月例研修会 (歴文共催)
明日香の古墳と万葉歌碑めぐり

杉本 登



春とはいえまだ肌寒い日々が続く3月22日、歴文研修会と例会を兼ねて明日香を歩いた。当日はうす曇りで13人の参加者であった。当初は奥明日香を訪ねる計画であったが、奈良交通バスの定期運行が中止になっており足の便の確保ができないことや、早春の奥明日香は見るべきものがないため、明日香村で最近話題になっている古墳と万葉歌碑めぐりに変更した次第である。

10:05に近鉄飛鳥駅前に集合し、まず牽牛子塚古墳に向かう。この辺りは真弓の岡と呼ばれており万葉歌にもよく登場する。古墳は7世紀後半の古墳時代終末期のものであり、石室が2つに区分されて2人が埋葬された形跡があることより、天智・天武天皇の母の斉明天皇の墓ではないかと、新聞などで話題になった。書紀には667年の陰暦2月27日に斉明天皇と間人皇女を小市岡上陵に合葬し、同日大田皇女を陵の前の墓に葬ったとある。この古墳は当初円墳と見られていたが、その後の調査で高貴な人を葬る八角墳であることが判明し、またすぐ前から未知の古墳(越塚御門古墳)が発見されたことから斉明陵ではないかと騒がれることになった。間人皇女は中大兄皇子の妹で孝徳天皇の皇后であった。また大田皇女は中大兄の娘で大海人の妃であった。つまり中大兄は母と妹と娘を同時に葬ったわけである。書紀にある小市岡上陵は高取町車木にあり、同様に前に小古墳があり大田皇女の墓と云われている。このように書記の記録とも合致するが、小市岡と真弓岡では約14～5kmも離れており無理がある。書記

は天武天皇の命により舎人親王が編纂したが成立は720年と埋葬から53年しか経っていない。従って埋葬場所を間違えて記載したとは考えにくい。つまり新聞などを賑わした斉明陵とは考えられないのである。次に石舞台までバスで行き、蘇我稲目の墓ではないかと云われている都塚古墳に行った。南西の開口部より古墳内部が見え、立派な石室と石棺があり、いかにも最高権力者大臣稲目の墓にふさわしいと感じた。例会の最初に予定していた犬養万葉記念館が、休館で入れなかったのが残念であったので、万葉文化館前にある歌碑の前にて、全員で万葉歌を歌う。舎人娘の歌

大口の 真神の原に 降る雪は

いたくな降りそ 家もあらなくに

その後、藤原鎌足生誕の地、小原(大原とも)まで歩く。天武天皇と藤原夫人の万葉歌の歌碑の前にて全員で万葉歌を歌う。

わが里に 大雪降りり 大原の 古りにし里

に 降らまきは後 天武天皇巻2-103

わが岡の おかみにいひて 降らしめし 雪のくだけし そこに散りけむ

藤原夫人巻2-104

天武が明日香の宮殿に大雪が降ったよと喜べば、夫人は私が土地神に言いつけて降らせたのよときりかえし、ユーモラスなかけあいの歌になっている。万葉歌を見ていつも感じるのは、古代人は天皇や貴族も、じつに素直にうれしいとか悲しいとかの感情を表現していることである。子供のように雪が降ったよ、うれしいなと天皇が喜び、小原に降るのはずっと後だろうよと歌い、夫人が何言っているのよと切り返す。ほのぼのとした夫婦の営みが伝わってくる。現代の私達も夫婦はもっと素直にお互いの気持ちを伝えるべきだなあと感じた。

バスで橿原神宮駅まで出て14:40駅にて解散した。万葉学者の故犬養孝先生は、「万葉集は歌うものです、目で読むものではありません」と言っている。人間の肉声で歌ってこそ、時空を超えて万葉人の思いが現代に蘇る。まさにその通りだと思う。特に人を恋する相聞歌は声に出さないと想いは伝わらない。皆様万葉歌は歌いましょう。

平成 29 年度新入会員歓迎会報告

辻本信一

平成 29 年 3 月 23 日 (木)、新年度を迎えるより一足早く平成 29 年度の新入会員歓迎会を「ならやまベースキャンプ」にて盛大に開催しました。

参加者は今年の新入会員歓迎会対象者 15 名のうちこの日都合の付いた 9 名と既会員 65 名の総勢 74 名。昨年とほぼ同等の参加人数となりました。

曇り空ではありましたが、ほとんど風もなく、会場は春らしい陽気に包まれ新入会員の皆さんを迎えるに相応しい穏やかな一日となりました。

当会では、昨年入会し歓迎を受けた会員の皆さんが中心となり新年度の歓迎会を主催します。

今年も初めての大役に最初は戸惑い気味のスタッフも、朝早くからの会場設営、竈作りで奮闘するうちにすっかり作業にも慣れ、午前中いっぱいしっかりと準備に励んでくれました。



【新入会員の皆様による自己紹介】

その間、昨年途中より入会し既にならやまでの活動に馴染んでおられる新人の方々には通常の活動に参加していただき、今回初めてならやまを訪れたと言う新人の方と希望者の方を含め 5 名の方にはあらためてならやまのフィールドをご案内しました。



【川井顧問と談笑】

エコファームでは、農作業中の川井顧問の激励

を受け、多少緊張気味だった皆さんの顔にも笑顔が溢れました。

更に、萱野リーダーからはビニールハウス内の案内を受け、種から苗を育てていることもはじめて知り皆さん興味津々のご様子でした。



【ビニールハウス内見学】

ならやまのフィールド案内を終えたころには予定の 11 時 40 分となり、鈴木会長の歓迎の挨拶で待ちに待った懇親会の幕が切って落とされました。

懇親会の食事メニューとして、毎年好評のバーベキュー、焼きそば、おでんに昨年から加わった蕎麦クラブ有志による手打ちそばがふるまわれ、更にネギ焼きもプラスされました。

「さあ、どうぞ！」の掛け声と同時に屋台の前ではお皿とお箸を両手に持った笑顔の列がみるみる出来上がりました。



【屋台の前の行列】

その後も楽しい時間は続き、最後まで笑顔の絶えない歓迎会となりましたが、一番の主役は新人の皆さん。特に今回初めてお越しになった新人の方々の印象が気になるころでしたが、翌日早速、5 名の方から丁寧なお礼のメールをいただきました。



そのメールを拝見し【美味しい料理に舌鼓】私たちが大歓迎する気持ちがしっかりと伝わったことを嬉しく思うと共に、明るく楽しいならやまの活動をこれからも大事にしていこうという気持ちがより一層強くなりました。

前日の買物から調理、下準備までご指導・ご指示いただいた池田様はじめ、今回の歓迎会を担当して頂きましたスタッフメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。心より感謝いたします。お疲れ様でした。

自然教室だより

3月・春の奈良公園自然観察会報告

辻本信一

平成 29 年 4 月 4 日 (火) 奈良公園にて桜見物を主とした自然観察会を実施しました。参加者は 14 名。今年はことのほか寒い日が続き、奈良県では例年より 5 日遅れで観察会前日やっとソメイヨシノの開花宣言が出ました。それでもところにより八分咲きのソメイヨシノが楽しめました。

特に三条通沿いでは興福寺の桜が土産物屋の屋根越しに枝を張り出し私達の目を引きました。



【朝の集合】



【ソメイヨシノ】

奈良公園では 3 月末頃より 1 ヶ月近く早咲きから遅咲きまで多くの種類の桜が楽しめます。春日大社一の鳥居を過ぎた料理旅館「江戸三」周辺ではエドヒガンがこの時期満開を迎えました。

今回の観察会では桜の花の各部をルーペで詳細に観察、同定に花の萼筒がくとう（萼片からつながる筒の様な形の部分）や花柄の根元に付く苞ほう（開花前の花の蕾を保護していた特殊な葉）に注目、エドヒガンとコヒガンでは明らかに萼筒の壺状部分の大きさが違い、参加者の皆様にも自身の目で確認し納得していただきました。



【エドヒガン】



【コヒガン】

特に浮雲園地東側の新公会堂内の庭では、手頃な高さのコヒガンが満開を迎えており、その姿をジックリと観察できました。

浮御堂のある鷺池北側ではコブシとハクモクレンの花が満開を迎え、艶を競っておりました。

どちらも花弁の数は 6 枚ですが、ハクモクレンの方は花弁に似た白色の萼片 3 枚が加わり花弁 9 枚に見え、コブシの 3 枚の萼片は緑色で小さく花弁 6 枚だけが目立ちます。



【満開のハクモクレン】 【氷室神社シダレザクラ】

またこの日は行く先々で小鳥達の出迎えがあり私達に本格的な春の到来を感じさせてくれました。私達の心も浮き立ちます。



【コゲラ】

【シジュウカラ】

春日野園地北東角の橋を渡った先には早咲きのヤマザクラがしっかりと開花。ここでは花柄下部のくさび形の苞に注目。その先端に小さな鋸歯（葉のギザギザ）があるのを確認しました。

観察会終盤には戒壇院入り口付近の石段下に密生するキランソウや人知れず健気に咲くノミノフスマ、ノミノツヅリを発見。その可憐さに思わず溜息が漏れました。



【可憐なノミノフスマ】 【お疲れ様。戒壇院下】

こうして楽しかった時間もアッという間に過ぎました。今回も天候と仲間恵まれ、素晴らしい観察会となりました。次回は皆さまも是非ご参加ください。（写真は HP でお楽しみ下さい。）

4月・月例研修会報告

* 室生の里お花見ツアー *

羽尻 嵩

*実施日：4月11日（火）

*参加者：女性14名 男性12名 計26名

*行程をマイクロバスにて移動する。

朝から雨・雨・雨……。それでも参加者の皆さんは「いい天気ですね」と集まって来た。感激。

佛隆寺は、空海の高弟の堅恵（けんね）により室生寺の南門の末寺として創建されたとされる。ここには、この寺へ通じる197段の階段の途中に奈良県最古の桜の樹がある。さて、花は・・・とその樹に目をやるが、下から見上げてても上から見下ろしても見事に蕾のままだった。それでも樹齢千年の巨木の存在感は迫力があり、「もう一度咲いた頃に見に来よう」とカメラを向ける人もいた。



寺の奥には珍しい形の堅恵の墓や大和茶発祥の地の碑もあり、雨に濡れていた。

室生寺についた頃には雨も小降りになってきた。満開の桜を愛でながら川沿いを歩く。観光客はまばらで、ゆったりと龍穴神社へ向かう。

龍穴神社は古くから雨乞いの神事が行われてきたパワースポットだ。桓武天皇が皇太子の時、ここでの病氣平癒の祈祷によって健康を取り戻したので、そのお礼にと近くに寺院を造らせたが、その寺院が室生寺といわれている。

この奥には龍の住む龍穴があるが、今回は雨のため行くのを止めた。

昼食は、国による地滑り対策の記念として作られた「あさぎりの里公園」のホールでとる。

運良くその体育館を貸切りで使わせていただくことができた。

用意したシートの上に座り、昼食タイムとなり、ドリンクやつまみも出て、和気あいあいと話の花も咲き、花見の宴となった。



昼食後は、雨が小降りになってきたので、公園に出てみた。公園にはレンギョウをはじめ、季節の花々が咲き、眼下には室生の里が箱庭のように広がって見えた。

次に向かったのは西光寺。この寺のお堂の横には大野寺の親木と伝えられている樹齢300年以上のシダレザクラがある。この日は5分咲きぐらいだったが、えもいわれぬ優美な姿で私達を迎えてくれた。記念写真も笑顔でバッチリ。極楽浄土とはこのようなところか。



最後の大野寺は、古くから室生寺の末寺で「室生寺の西門」と呼ばれてきた。このシダレザクラは満開だった。

また、宇陀川を挟んだ対岸には岩壁に彫られた13.8mの弥勒菩薩立像があり、皆さんそれをバックに写真を撮っておられ、雨天に華を添える参加女性達の写真も紹介したいのですが、紙面がつきたのでこれで終わりとします。

佐保川 わいわい桜まつりRepo.

鈴木 末一

第15回佐保川わいわい桜まつりは、4月2日(日)に順延し開催。桜は蕾みが膨らむ程度で、桜見物の出足が鈍くバザーの売れ行きが心配でした。晴れ間が広がるとともに人出も多くなりました。

当会からは、今年で4回目の出店参加をしました。三種の食品バザー“唐揚げ”“焼きそば”“玉蒟蒻”、と“鯉のぼり”“数珠球ブレスレット”の自然木クラフト、さらに“椎茸ホダ木”の販売と、多彩なジャンルでの協賛を行いました。食品バザーは開店と同時に、店の前には30人以上の列が途切れることなく続き、“唐揚げ”と“焼きそば”が人気絶頂。特に“焼きそば”は午前中で完売となり、午後の来場者に備え、食材の買い付けのためにスーパーへ走る忙しさとなりました。



一方、クラフトでは、オリジナル作品作りができるというので好評。見本を見ながら手際よく製作

に励み、完成した時、達成感に満ち溢れた表情でにっこり。得意気にお父さんやお母さんに見せると、「いいのができたね」と親子間で会話が弾む光景を、いくつも目撃することができました。中にはお母さんやお婆さんが、子どもさんやお孫さんのお土産にと童心に戻った心境でチャレンジされました。

終わりになりましたが、ご参加いただいた総勢19名もの多数の会員の皆様方、ブースを訪れていただいた仲川奈良市長はじめ市民の皆様方との交流や、当会のPRなどにご尽力いただきましたことにお礼を申し上げます。



行事案内 part 1

八木 順一

朝日親子自然環境教室実施のご案内

毎年、朝日新聞社・朝日学生新聞社とシニア自然大学校が「親子で自然に親しみ、自然の不思議さ、素晴らしさ、大切さを学び、合わせて親子の触れ合いに役立てる」をテーマに開催している「朝日親子自然環境教室」が、今年からシニア自然大学校が主催者になりました。

本年度の第1回目の講座が来る5月28日(日)ここ奈良人と自然の会ならやまサイトで開催されます。(雨天の場合は翌週6月4日<日>に延期されます)

当日は、シニア自然大学校からの10名余りのスタッフに加え、親子各一名で50組100人の参加者が予定されています。

今回のならやまでの活動のほかに、この朝日親子自然環境教室には、一年間に亘って須磨海岸の地引網の海体験、淀川の生き物や治水・利水学習、その他生駒棚田クラブでの稲刈り体験等、全6回さまざまな講座が用意されており、参加者も関西一円から見込まれるとのこと。

当会では「里山の保全と整備」「農作物の生産の大切さと講義と実地体験」等の内容を準備していますが、ここでの講座や実地体験を通して少しでも日頃触れることの少ない自然への興味・関心そして積極的な関わりの心をならやまに参加した親子ともども持って帰り、地域での生活に生かして欲しいものと願っています。

当日は、参加者の安全確保やスムーズな運営のために、いつものイベントのように多くの会員の皆様のご協力を頂くが必要になってきます。お忙しい時期で大変恐縮ですが、ご家族の子どもさんやお孫さんに接する気持ちで、ここならやままで足を運んで頂き、楽しい充実した時間を過ごしていただけたらありがたいな、と思います。よろしくお願いいたします。



ニホンミツバチの ことなど

阿 部 和 生

イチゴなどハウス栽培に欠かすことのできない昆虫がミツバチです。働き蜂の活動で形の良いイチゴが大量に生産できると、農家の方は話されます。ハウス栽培のそれはセイヨウミツバチで、養蜂家から有料でチャーターし収穫の向上が実現です。ハチと聞きますと「ハチ目スズメバチ」達を連想して、襲う、刺される、怖いとなりますが、ミツバチ科の仲間、特にニホンミツバチは、比較的小となしい性質で、人と最も心を通い合わせられるようです。

その社会生活は、一匹の女王バチと雄バチ、数万匹の働き蜂が群を作り社会生活を営み暮らします。女王バチは、一日 1000 個～1500 個の卵を生産（2～3 年）産み続ける役目を担い、最初の結婚飛行以外は巣から外に出ることがありません。唯一新女王蜂が誕生し分蜂するときに例外で、新しい営巣の場を求めて働き蜂の一部と集団で外に出るときだけです。働き蜂は全てメスで、誕生からすぐに動き回り、2 週間程度で巣箱の中の役割を終えると、蜜集めに出かけ、休む間も無く働き続け 3～4 ヶ月で生涯を終えます。

ミツバチは清潔好きで、絶えず巣箱を掃除します。またそれぞれの個体を手入れし汚れを取ります。卵から孵化し幼虫となり脱皮を重ね蛹化し羽化する完全変態で、21 日程度で成虫になります。

誕生した妹ハチが集蜜に出かける前には集団で巣箱に向かいホバリングし、出入り口の姉さんハチからの信号をうけとめ自分の巣箱や周囲の状況を 30 分程度でインプットするそうです。外での活動範囲は、ニホンミツバチの場合は径 2 キロ程度で、太陽光と自分の進む方向との角度で（光コンパス）で花蜜を集め、同じく光リコンパスで巣箱に戻ります。ミツバチの目はそれほど遠くまでは見えないが、近付けば色や形、動きを見分けますし、またそれらを良く覚えます。臭いは大切な信号、目は紫外線が見えるそうです。

仲間同士の意思疎通も尻振りダンスにより遠近・方角を伝達しますし、また花卉へのマーキングで、吸蜜した花を知らせ他のハチが無駄に蜜源を探し回ることが無く効率的です。同じ花の蜜を求めてせわしく蜜を求めて動き回り、花粉を散ら

して植物の期待に応えます。一方で蜜を蜜嚢（密胃）に貯め、体についた花粉は上手に花粉団子にして足にくっつけて巣箱に持ち帰ります。

ミツバチの天敵はスズメバチ。狙われると大変です。多数の集団に襲われると壊滅します。

ニホンミツバチは、あまり毒針を使いません。一度使用すると内臓からちぎれそのハチは死んでしまいます。針を使うことは自殺行為になるのです。このとき SOS の臭いを周囲に放ちます。引きちぎられた内臓から放出された臭いは、他のハチに伝達され集団で襲うことに繋がるのです。比較的温和な性質ですが、巣箱近くでの騒音や震動には反応し威嚇してきます。こうしたときは背を低くしそのまま後ずさりして、素早く避難するのが良いようです。

一匹の働き蜂の生涯の蜜収穫量は、スプーンに 1 杯程度と言われますから、貴重な食べ物なので、大切に扱いたいですね。蜂蜜も有り難いが、虫媒による豊かな植物の収穫を喜ぶ事が第一で、蜂蜜は「おまけ」と考えるべきかもしれません。

（ミツバチの不思議より）



昨年 10 月の新聞にミツバチの痛ましい記事が掲載されていました。ネオニコチノイド系農薬によるハチ神経障害による死滅情報です。有機無農薬栽培では考えられない現象です。水に溶けたこの農薬は、植物の根から吸収され葉や茎そして花の隅々までもたらされるので、蜜や花粉に含まれた微量な農薬吸収でハチの神経が冒され、帰巣本能神経がやられ巣箱に戻れなくなるものです。

かつてのイタイイタイ病を思い起こさせます。人は食べても直ぐには病状が出ないが農薬は体内に蓄積されるのです。

有機無農薬で自然環境を整えるということは、ハチにとっても住みやすい。人間にとっても心身の健康が得られる環境なのです。ミツバチと花々とは、長いつきあいと共に進化し、蜜を吸い、受粉を助ける仕組みが出来て、相互依存関係になっています。花々にとって好ましいパートナー、無くてはならない仕組みなのです。環境指標生物と云われる所以です。

（ニホンミツバチに起きた異変より）

仲間入りしました



北川 小夜子

小さいときから、土に触れることなく育ち、プランターでトマトやキュウリくらいしか作ったことがありません。畑仕事がしたいと思っていましたところ、奈良でこんな会があると聞き、会員の中山さんに紹介していただきました。

とりわけ、蕎麦が好きで、食べるのも好きですが、蕎麦打ちが大好きです。種まきから収穫して、蕎麦打ちするのを楽しみにしています。仕事があるので、月1回くらいしか参加できませんが、よろしくお願いします。

田代 一行

今年度から入会させていただきました田代です。シニア自然大学第23期花組を修了し、奈良県内のサークルで良い所がないか考え、色々聞いた中で、伝統と幅広い活動に魅力を感じ、入会しました。今日まで2回出席しましたが、皆様の生き生きした活動を見て、早く皆様と馴染んで交流を深めたいと思っています。何より辻本さんのキャラは親近感があり、このサークルの顔としてPR効果は抜群と思います。

また3月23日は会員様による新入会員歓迎会は感激でした。改めてお礼申し上げます。今後は積極的に参加して、早く活動の全般を把握して自分のポジションを決めて、自信が持てるような活動が出来れば良いなあとと思っています。

田積 彰男

去年、シニア自然大学から3回の実習を体験いたしました。野菜の収穫、蕎麦祭り、花の手入れ等の作業がとても楽しく、良い汗をかくことができました。会員の皆様が温かく受け入れてくださり、楽しい時間を過ごすことが出来たので、即入会を決めました。

家でも花の栽培や家庭菜園を楽しんでいますが、先輩の方々から教えていただくことが大変役に立ちます。月2回程度の参加となりますが、よろしくお願いします。

田村 榮章

私の生れは岡山県です。現在は東大阪市小阪に住んでおります。山歩きのきっかけは、雄山登山でした。私は持病を持ちながら、今まで殆ど一人で山歩きの楽しんで来ました。好きな場所は上高地と涸沢が好きです。何時までも自分に合った山歩きがしたいと考えています。また、私は海も大好きです。どうぞよろしくお願いします。

津倉 寿子

このたび入会しました津倉です。よろしく。蕎麦打ちに行かない、蕎麦植えて、収穫して、打つよ、どんなのかしら？ 参加してみて、大勢の人と、規模の大きさに、ビックリポンです。つられて、入会をしましたが、何も知らなく、何をしたいかも分かりません。私は大阪市北区で生まれ、高校の時に、東淀川に引っ越しをし、キュウリ、ナス、トマトのなっているのを、初めて見ました。

そんな私ですので、参加も月一日程度になるかと思いますが、よろしくお願いします。

戸田 博子

梅の花が咲いている頃入会し、桜の花が開き始めた時に新入会員歓迎会をしてもらいました。これからも四季色々の花に出会いながら、自然再生に向かって汗を流したいです。平城山は「風の谷のナウシカ」の場面を連想します。虫も鳥も、そして細菌や黴にさえ優しくなれる、そんなところが「ならやま」です。

私も、「奈良・人と自然の会」に良い風を吹かせて、実際にはいない生き物に出会えたらと思いつながら、皆様と作業を続けたいです。酉年に入会した、鳥類が好きな戸田をよろしくお願いします。

三谷 幸代

奈良・人と自然の会は、一度も見学をせず入会しました。色々な方々からいい話は聞いていましたが、やはり不安はあり「どんな所か?」「何をやるか?」と思っていました。でも、ここで作業に向かって小道を歩いていると、不思議な何とも言えない気持ち良い気分を感じた時に、やっぱり入って良かったと思いました。

これからもよろしくお願いします。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

5月	4 (木)	11 (木)	18 (木)
6月	1 (木)	8 (木)	15 (木)
	22 (木)	29 (木)	

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 ha の里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

◆環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参ください。

◆連絡先：八木 順一



里山

5/4 「協働作業の日」松林土掻き

経団連部分皆伐地区伐倒木の整理

薪割り・玉切り材の運搬

11 18

経団連部分皆伐地区伐倒木の
整理／薪割り・玉切り材の運
搬／楢木定置準備作業

25

経団連部分皆伐地区伐倒木の
整理／薪割り・玉切り材の運搬
枯死木伐採



エコファーム

5/4 「協働作業の日」松林土掻き

畑：茄子、唐辛子、南瓜など植え付け
苗代管理

蕎麦：なし 果樹：なし

11

畑：サツマイモ植え付け、
西瓜、ゴーヤ、胡瓜植え付け／苗代管理

蕎麦：なし 果樹：果樹調査

18

畑：田畑の水路整備（取水口排水口）／苗代管理
蕎麦：なし 果樹：なし



25

畑：茄子、唐辛子、トマト支柱立て
エンドウ、ニンニク、玉葱収穫
苗代管理

蕎麦：なし 果樹：柑橘類内枝剪定

景観

5/4 「協働作業の日」松林土掻き

整備：BC 周辺草刈り整備／筍掘り

ビオ：水生生物調査

パト：観察路ロープ張替他

花：矢車菊の柵作り

11

整備：実りの森草刈り整備

ビオ：池の整備

パト：観察路 4 コース整備（助成金対象）

花：ジャーマンアイリス園の草取り、柵作り

18

整備：実りの森草刈り整備

ビオ：池の整備

パト：観察路 4 コース整備

花：花菖蒲園の草取り、斑入りシャガの移植

25

整備：実りの森草刈り整備

ビオ：池の整備

パト：観察路 4 コース整備（助成金対象）

花：アダプト P 園のパンジー撤去と土作り





行事案内 part 2

自然教室・5月自然観察会 新緑の「ならやま」自然観察会

新年度第1回目となる4月の観察会は奈良公園にて早咲きの桜を中心とした観察を実施、天候にも恵まれ、春の訪れを肌で感じる楽しい観察会となりました。

第2回目となる5月の観察会は場所を「ならやま」のフィールドに戻し、新緑のこの時期、時に遅く、時に可憐に慎ましく咲く野草の初夏の姿を求め、前年度より続く「身近な植物に親しもう」をテーマに実施いたします。

「雑草という草はない。どんな植物でもみな名前があって、それぞれ自分の好きな場所で生を営んでいる。人間の一方的な考え方でこれを雑草と決めつけてしまうのはいけない・・・」とは、昭和天皇が当時の入江侍従長におっしゃられたと伝わる有名なお言葉ですが、実際の観察会においても視点を少し変え、植物の生き様あるいはその健気な姿に接すると、時に大きな感動を覚えます。

これを機会に、是非、皆さまも「ならやま」での観察会にご参加ください。

多数のご参加をお待ちしております。

記

1. 日 時：平成29年5月16日(火)
午前10時～午後2時前後(予定)
2. 場 所：ならやまベースキャンプ
3. 持参物：弁当、飲物、ルーペ、あれば図鑑
4. 進め方：私たちの活動の場である「ならやま」の里地・里山林で、待ちに待った春の訪れを謳歌し、遅しくも可憐に優雅に咲く、色とりどりの野草を自分の目で確かめていただき「ならやま」の豊かな植生を肌で感じていただきます。
5. 担 当：自然教室チーム
(辻本信一・桜木晴代・山本美智子)

以上

創立15周年記念特別企画

「越の国歴史探訪の旅」ご案内(Ⅱ)

下記日程で、「継体大王」を生んだ越の国(福井県)への歴史探訪の旅を実施します。定員28名に対し空席はあと僅かとなっています。お申込の方は、至急事務局までご照会ください。

《実施要領》

期日：5月30日(火)、31日(水)雨天実施

費用：25,000円(一泊4食)

交通：生駒交通デラックス中型バス

集合：大和西大寺駅南口：8時

見学先：

気比神宮(敦賀)、越前和紙の里(味真野)

越前そばの里、足羽山継体大王像(福井市)

三国湊散策、永平寺、六呂瀬山古墳群、

高島歴史民俗資料館(高島市)など

宿泊：休暇村越前三国(0776-82-7400)

照会先：歴史文化クラブ事務局 古川祐司

奈良学クイズ

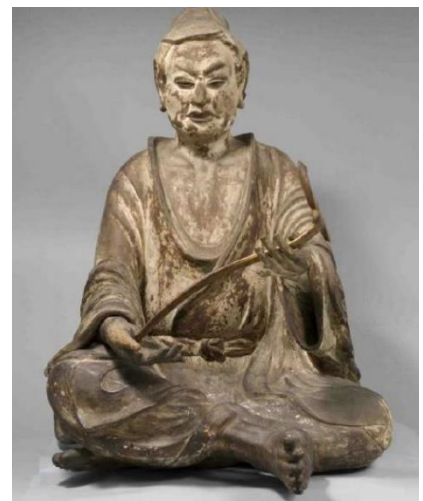
【1】この像の名称と重文または国宝の何れかをお答えください。

【2】この像を所蔵している寺院名をお答えください。

【締切】

5月4日(木)

【応募方法】メール(鈴木)



平成 29 年・4 月度幹事会報告

日時：3 月 28 日（火）14：00～17：00

場所：奈良市中部公民館 4F 第 2 講座室

出席者：20 名 欠席者：3 名

I 会長挨拶：4/12 本部役員で今年度の総括予定

II 事務局・会計報告

① 会員数 154 名（退会 2 名、入会 5 名：3 名増）

② 会計報告：2 月度収支報告

III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3 ヶ月並びに当月スケジュールの検討と確認
4/6 南皆伐地腐葉土掻き、協働作業実施予定
6/12 育英小学校出前教室追加

筍掘協働作業、状況を見て設定。新入会員向けオリエンテーション実施内容検討。

2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明

3. 月例研修会（報告と予告）

・3/22 明日香古墳と万葉歌碑巡り参加者 13 名

・4/11 室生の里・花見バスツアー予告

4. 自然教室（報告と予告）：

・3/8 ならやま自然観察会、参加者 10 名

・4/4 春のなら公園、桜見物予告

5. 歴文研修（報告と予告）：会報記事参照

・3/1 島ヶ原と伊賀上野城、参加者 27 名

・5/30～31 越の国歴史探訪バスツアー予告

6. イベント（報告と予告）：会報記事参照

① 3/23 新入会員歓迎会実施、参加者 74 名

② 4/1 佐保川わいわい桜まつり、展示内容説明

③ 4/23 アースデー：自然工作出展

④ 5/3・4 平城京跡天平祭春 2017 自然工作出展

⑤ 5/28 朝日親子自然環境教室小学 3・4 年生対象、参加者約 100 名。4/30 事前打合せを予定

⑥ 7、8 月公開イベント実施予定、担当者決定要。

7. 各種助成金関係状況説明

IV. 広報関係：ネイチャーなら 5 月号編集確認

次回臨時幹事会を 4/18(火)

ボランティアセンターにて実施

以上



平成 29 年・4 月臨時幹事会報告

日時：4 月 18 日（火）14：00～17：00

場所：奈良市ボランティアセンター

出席者：17 名 欠席者：6 名

第 16 回通常総会の開催に向けての資料準備の為、第 16 期事業内容並びに第 17 期事業計画につき集中審議を行った。

主な議題

1. 議案書並びに案内文（会報に同封）内容確認

2. 第 16 期収支報告並びに第 17 期予算計画

3. 総会実施要領、役割分担

4. 10 年表彰について

5. 総会後の懇親会について

他案件

1. 7 月、8 月の奈良県協賛イベント企画について

他は 5 月度定例幹事会にて審議することとなった。

以上



6 月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

6 月 1 日 協働作業の日（松林土掻き）

8 日 佐保台小 5 年生・田植え

（予備日 15 日）

6 月 22 日 春の感謝祭（ジャガイモ祭り）

*月例研修会

6 月 13 日 高取城跡・土佐街道を歩く

*自然教室

6 月 12 日 育英小学校 出前教室（授業）

20 日 初夏の奈良公園 子鹿観察

21 日 佐保台小 放課後子供教室



第16回通常総会等のご案内

第16回通常総会等を下記の通り開催いたしますので、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

総会

1. 日 時 5月20日(土)
14時00分 受付開始
14時30分 総会開始
2. 場 所
奈良市ボランティアインフォメーションセンター
Tel: 0742 (93) 8435
奈良市三条本町13番1号
1階 会議室 (1-1、1-2、1-5)
3. 議 題
第1号議案
第16期 事業報告および収支報告
第2号議案
第17期 事業計画(案)、予算(案)

懇親会

通常総会の終了後、新年度のスタートにあたり、下記要領にて、懇親会を開催しますので是非ご参加ください。

1. 日 時 5月20日(土) 17時～19時
 2. 場 所 「和ダイニング花小路」
Tel: 0742(23)9551
奈良市小西町23
ホテル花小路 2階
 3. 会 費 3,000 円(飲み代別)
 4. 申込締切日 5月13日(土)
- 担当: 辻本
青木

*議案書は会報5月号に同封します。総会の出欠及び懇親会への参加の可否について、同封のハガキにより5月13日(土)までにご連絡ください。

◆ 申し合わせ ◆

- *通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。
- *通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。
- 奈良県北部の降水確率は、奈良気象台17時発表。
(<http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html>)
- *臨時活動日を月曜日にする事があります。
(事前に担当役員から連絡します。)

◆ 健康を保つため



ならやまは、この春に多数の新入会員を迎えました。皆さんの良き居場所になる事を期待します。
健康第一でのご活躍ください。

ある雑誌のコラムに、健康保持の条件が書かれていたので紹介します。

1. 歩んできた過去は振り返らない。
2. 常に新しいことに挑戦する。
3. 一日の生活リズムを作り、崩さない。
4. 食べ過ぎない、飲み過ぎない。

この4月に、同期入会の池田敬二郎さんがお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りします。

(行々子)

顧問・川井さんの献句(お別れの会)

故郷にひと世を生きて散るさくら
秀夫

会報誌[ネイチャーなら]・第184号

発行: 奈良・人と自然の会
会長 鈴木 末一

URL: <http://www.naranature.com>



編集チーム代表: 坂東久平